

南アフリカ 10年間の交渉の末に生食用ブドウをフィリピンに輸出

[The Grape Reporter 2025年3月12日](#)

2015年1月に始まった交渉プロセスが終了し、フィリピン市場は2025年2月26日に、正式に南アフリカの生食用ブドウに開放された。

南アフリカの青果物生産者は、新たな市場へのアクセスを積極的に求め、雇用を創出し、輸出先を多様化させてきた。

同国農業省広報官のジョイリーン・ヴァン・ワイク氏は Freshfruitportal.com(本サイトの関連サイト)に対し、生食用ブドウ産業が南アフリカの経済において重要な役割を果たしていると語った。同氏によると、2022-23年度の生食用ブドウシーズンには、6,300万箱が輸出された。(特記した場合を除き、以下「」は同氏の話)

「輸出は外貨収入を生み出し、雇用機会を創出し、農業部門の成長に貢献する。」同氏はまた、2022-23年度シーズン中に、この業界は8万6,870人の季節労働者と1万4,843人の正社員を雇用したと述べた。

市場の多様化

南アフリカは、世界のトップ5に入る生食用ブドウ輸出国である。しかし、ヴァン・ワイク氏は総輸出の約80%がヨーロッパと英国向けであることを強調した。

「したがって、業界が確実に多様化することが重要である。農業省は、雇用創出を促進し、経済を成長させ、地元の農産物を多様化するため、新しい市場へのアクセスを非常に真剣に受け止めている。これは、アクセスがまだ獲得できていない市場への一層の取り組みを励ますものである。」

市場アクセスの獲得プロセス

市場開放の合意締結に要した時間の長さについて同氏は、フィリピンや他の極東諸国等の貿易相手国は、1度に交渉するのは1品目に限ると言う原則に基づいて市場アクセスを許可していると説明した。

「柑橘類は優先リストの中で生食用ブドウよりも前にあり、柑橘類のプロトコルは2020年に最終決定された。さらに、植物検疫措置の遵守を確保するための技術情報の交換は、結論が出るまでに数年かかる。」

輸出の作業計画が確定され次第、南アフリカ初の生食用ブドウのフィリピンへの輸出量と出荷日に関する詳細が発表される。

南アフリカ生食用ブドウ協会(SATI)のメシア・ピーターセンCEOは、「我々は南アフリカ産生食用ブドウの市場アクセス拡大に取り組んできており、この結果に非常に満足している。フィリピン市場は、生産者と輸出業者にエキサイティングな機会を提供する」と述べ、「南アフリカの生食用ブドウ産業は、世界市場の需要に合った高品質な製品を提供することに引き続き取り組む。この新しい市場アクセスにより、フィリピンで南アフリカの生食用ブドウのブランドを構築することに期待している」と付言した。

南アフリカの生食用ブドウ業界は、今シーズンの出荷量を7,640万箱と予測しており、2月末までに梱包作業の94%を完了した。

同協会のマーケティング開発及びコミュニケーションの責任者であるデニーン・エラスムス氏は2024年12月に Freshfruitportal.com に対し、この数字は5年間の平均出荷量を6%上回っており、南アフリカは世界市場に十分な品質の製品を供給する上で良好な立場にあると述べていた。

2023-24年度シーズンに南アフリカが輸出した上位5品種は、クリムゾンシードレス、スイートグローブ、スイートセレブレーション、プライム及びオータムクリスプであった。